

電子展示委員会活動報告

電子展示委員会

「八代集の世界」を公開

図書館ホームページ上に開設した電子展示室のコンテンツも3テーマ目となった。平成17年(2005年)は、古今和歌集成立1100年、新古今和歌集成立800年という日本文学史上の節目の年にあたり、図書館展示計画委員会の活動報告にもあるように、秋季展示として「八代集の世界」をテーマとする資料展示を実施した。電子展示室においても、同じテーマを採用して、展示室にて一般公開した資料を中心としてコンテンツを作成した。秋季展示と同じテーマを選択することで、より効果的な広報を行うことができたのではないかと考える。また今回は、図書館長で、古筆を専門とされる田中登先生に、企画段階から資料の選定、デザインのアイデア、テキストの校正などあらゆる面で検討に参加していただくことができた。

八代集は、古今和歌集に始まる八つの勅撰和歌集を指すが、秋季展示にて公開した資料は27点上り、全ての資料の全ページを電子化することは困難であった。そこで、コンテンツを、全ページの公開を行うものと、表紙や内容の一部の画像に解説文を付した資料紹介的なものの2つに区別することにした。コンテンツの構成は以下のとおりである。

まず、全ページの公開を行う資料は、「北山切新古今和歌集」のみとした。これは、足利尊氏の筆と伝えられるもので、巻16から巻20のみを残す新古今和歌集の零本である。

画像作成は従来の方法を踏襲し、カラーマイクロフィルムを撮影した上で、フィルムをスキャンし、tiffファイルを作成、公開用にjpegファイルに圧縮する方法を採用した。北山切には、歌の先頭部分に選者の名前が小さく略字で書きこまれているが、こうした書き込みを判読できるよう、tiffファイルから大きさの異なる2種のjpeg画像を作成した。画像作成の作業はいずれも業務委託である。

各ページへのナビゲーションは、先頭から順にページを追うほかに、収録されているすべての歌に付与されている新編国歌大観の歌番号から該当するページへ遷移する機能を、Javaを使って実装した。画像は見開きの2ページ単位で作成しているため、歌

が画像のどの位置にあたるかが分かるように、歌番号の後に歌の初句を表示させている。

資料紹介的なもう一つのコンテンツでは、秋季特別展示で公開した八代集関連の資料のうち、中心的なものを紹介した。八代集の各歌集毎にページを設け、選者、歌数、特徴などの基本的な説明のほか、図書館でデジタルカメラにより撮影した表紙やテキストの画像を、図書館展示で使用した展覧目録と同じ内容の解説文を添えて示すことで、貴族文化を伝える八代集関連の資料群を紹介することを狙った。

サイトの設計は、基本的な骨子を当委員会が中心となって検討してサイトフローを作成、図書館で撮影した画像とテキストを業者に提供し、公開用htmlファイルの作成を依頼した。デザインは従来のものを踏襲したが、「北山切新古今集」にも電子展示のトップページからアクセスできるようにリンクを作成した。これは、全ページ公開する資料が「八代集の世界」のコンテンツの中に埋もれて分かりにくくならないようにするためである。

コンテンツ作成は、秋季特別展示に先駆けて公開できるよう、昨年よりも前倒しで計画し、10月末日に公開した。

今後の課題等

今年度の新しい試みとしては、図書館展示計画委員会が実施する展示活動と同一のテーマを選択したことと、資料の全ページを公開するのではなく、表紙、内容の一部などの画像に紹介文を添えた、いわば資料紹介的な内容をコンテンツに加えたことが挙げられる。図書館展示との協働は、両者の連携をとるため、スケジュール調整に融通が付きにくくなることや、電子化すべき資料と図書館展示のテーマが常に一致するとは言えないなどの懸念もあるものの、新聞社の取材を受けるなど、図書館全体としての広報効果は高まったのではないかと考える。また、資料紹介的なコンテンツは、新着貴重資料の紹介などの内容を、ホームページ上で臨機に公開できる体制を、それを電子展示委員会が担うべきかをも含め検討すべきではないかと考える。